

# 春は、外壁メンテナンスの季節です!

あれよあれよという間に雪解けがすすみ、家の外観があらわに。  
厳しい冬を乗り越えたあなたのお宅の外壁は、どんな様子でしょうか。  
天気の良い休日に、家のまわりをじっくりチェックしてみましょう。  
快適な住み心地を長持ちさせるポイントは、  
早めの外壁メンテナンスにあります。

## 美観を取り戻すだけが、 外壁塗装の目的ではありません。

外壁の表面をおおっている塗膜は、住まいを守るバリアの役目を果たしています。家全体を塗り直すことで、見た目の美しさを取り戻す以上に、大切な住まいの寿命を延ばすという重要な効果があります。

外壁塗膜が劣化して防水性が失われてくると、雨水などの湿気を吸収しやすくなり、傷みの進行も早まることに。さらにその状態を放っておくと、塗り替えでは補修しきれず、外壁全体を張り替えるなど、大がかりなリフォームの必要に迫られかねません。ムダな出費をなくすためにも、外壁の定期的な塗り替えはしっかりと行いたいものです。

## 8~10年程度に1度を目安に、 外壁塗装リフォームを。

外壁塗装を行う目安は、だいたい次の通りです。新築後、初めての塗り替えは8年~10年。2回目以降は10年~15年。新築の際に用いられる塗料は耐用年数が短い場合が多いので、2回目以降よりも早いタイミングで塗り替えることをおすすめします。

また、外壁塗膜の劣化のスピードは、紫外線や雨、雪などのあたり具合によって変わってきます。家の外壁全体が同じように傷んでくるわけではありません。いちばん劣化の早いところの状態で、全体の塗り替えを行うかどうかを判断するようにしましょう。

## 自分でもできる外壁チェック。 気になったら、すぐに専門業者へ。

新築時に比べ、外壁の色が褪せたり、くすんだりしていませんか? それは、太陽からの紫外線により、外壁の塗膜が劣化したせいかもしれません。さっそく、次のようなチェックをしてみましょう。

### チェック① 壁を手でこすってみる

外壁を手でこすってみてください。白い粉のようなものが手についたら、塗料が劣化している状態です。これはチョーキング現象と呼ばれるもので、紫外線や熱、雨風などによって塗装面が傷み、チョークのような粉状になってしまうことを言います。チョーキング現象を見つけたら、塗り替えのサインとお考えください。

### チェック② 壁と壁のつなぎ目を指で押してみる

サイディングの継ぎ目やサッシまわりは、コーキングというゴム状の充填材で気密・防水施工がなされています。この部分を指で軽く押してみましょう。弾力が失われていれば、劣化が始まっています。雨水の浸入の原因となるので、コーキングを打ち替え、その後で塗り替えをおこなうことをおすすめします。



### チェック③ 外壁がひび割れ、塗装が剥がれている

長い年月を経たモルタルでよく見られるのが、窓サッシの角のひび割れです。なかでも、水平に入ってしまったひび割れは要注意。壁の中に、雨水などを侵入させてしまいやすいからです。症状が軽い場合は、ひび割れた部分にコーキングを施したうえで塗り替え。重度だと、左官補修が必要となります。サイディングでも、亀裂などが生じることがあります。たいていの場合、その箇所のサイディングボードを交換して修復します。



### チェック④ 壁に水をかけてみる

外壁表面に水をかけてみてください。水が染み込むような状態であれば、防水性がなくなっているということです。モルタル、サイディングともに、塗り替えが必要です。



こうした点検をすることで、外壁の傷み具合を知ることができます。とはいえ、素人が正しく見極めるのは難しいものです。少しでも気になるところがあれば、専門業者に見てもらいましょう。